

(森下委員提出資料)

「2025年日本国際博覧会」

テーマの具体化及び 開催計画の基本的な方向性に関する 意見

～4つのプロジェクト提案～

2019年6月
大阪商工会議所

基本的な考え方

「2025年日本国際博覧会」が、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、また「未来社会の実験場”People’s Living Lab”」をコンセプトに開催される。

同博覧会において、経済発展と社会課題の解決を両立させる、SDGs（持続可能な開発目標）の達成や、Society5.0の実現をめざすとともに、博覧会開催を機に、日本および大阪・関西が、国内外から人や情報、投資を呼び込む成長都市となるよう、そのための方策やレガシーについても検討する必要がある。

あわせて、こうしたテーマやコンセプトを博覧会会場で具体化するに際しては、エンターテインメント性を重視し、幅広い人々に新鮮な感動を与えるイベントとしての成功も不可欠となる。

については、同博覧会のテーマの具体化及び開催計画の基本的な方向性が検討される「大阪・関西万博具体化検討会」等に対し、「2025年日本国際博覧会」に向けて取り組むべきプロジェクトについて意見具申を行う。

また、各プロジェクトを推進するためには、国で検討中のスーパーシティの指定、またデータ活用のためのルール整備等が不可欠であり、それらについても強く働きかけていく。

「2025年日本国際博覧会」の意義

「2025年日本国際博覧会」に向けて取り組むべきプロジェクトを提案するに際し、同博覧会の、日本や大阪・関西にとっての意義や実質的意味を下記ととらえる。

【日本にとっての意義】

- 時代を先取りして、未来社会を2025年に見せる場
- Society5.0を実現する場
- 日本が出遅れた、デジタル分野・第4次産業革命分野等で、日本での社会実装を進めるとともに、世界トップに躍り出る機会

【大阪・関西にとっての意義】

- 世界における「実証事業都市・大阪」の位置づけの確立と「大阪への投資」実現
- 多種多様な仮説をたて、2025年に向けて実証実験を繰り返す中から、イノベーションを創出する気風の醸成
- 遅れているインフラ整備の一挙推進

＜2025年日本国際博覧会＞

開催期間 : 2025.5.3～11.3

開催場所 : 大阪 夢洲 (ゆめしま)

テーマ : いのち輝く未来社会のデザイン

コンセプト : 未来社会の実験場



「2025年日本国際博覧会」に向けて取り組むべきプロジェクト

「2025年日本国際博覧会」に向けて取り組むべきプロジェクトとして、下記4つを提案する。

【1】日本政府館として、先端医療のショーケースを設置する

～A I や I o T を用いた先端医療や健康がテーマのショーケース。
閉幕後は先端医療システムとして運営する

【2】博覧会会場を「未来都市」の核として、未来仕様の都市設計とインフラ整備を行う

～企業連合プラットフォームで、デジタル系と都市インフラ系を統合的に最適設計。
未来都市・スーパーシティを実現する

【3】データ経済圏形成に向け、博覧会開催前から期間中に、様々な実証実装に取り組む

～M a a S や万博トークンなどの様々な実証実装を、
博覧会会場と大阪・関西圏で実施する

【4】博覧会への参画を促す、「いのち輝く未来社会コンテスト」を開催する

～オープンなデータベースとして、国内外の企業の「共創」を促す拠点を設置、
開幕前から閉幕後も運営する

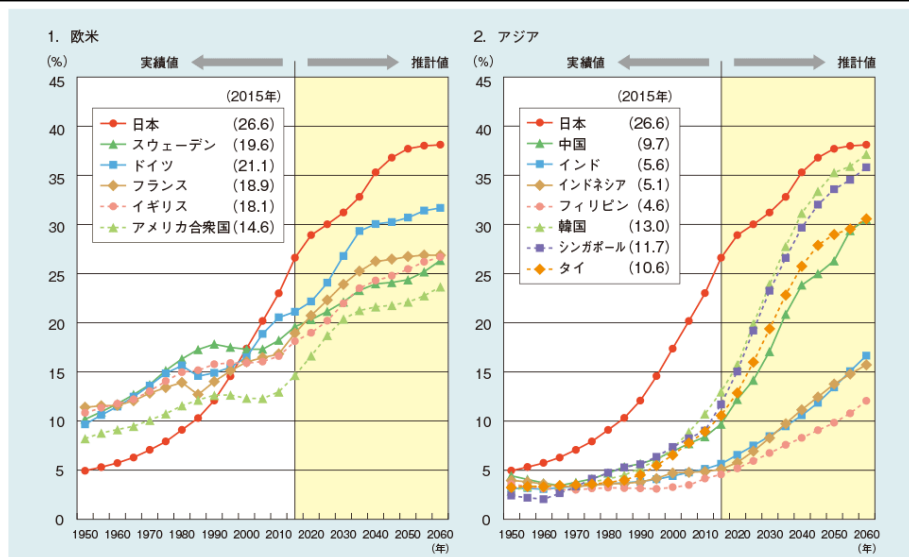
【1】日本政府館として、先端医療のショーケースを設置する

●アジアをはじめとする世界各国において、若さや美容・健康への関心が一層高まりつつあり、日本の先進的な医薬品・医療機器、再生医療等を活用した予防・診断・治療技術、健康プログラム等の導入ニーズが増大している。

●そこで、「いのち輝く未来社会」の具現化に貢献する、先端医療×若さ・美容・健康をテーマとするショーケースを、日本政府館として設置する。

●①日本の医薬品やA I・I o Tを用いた医療機器、アプリを使った診断機器など先端技術やサービスのショーケース、②アンチエイジングドックや疾患予防ドックと健康メニューが提供される健康レストラン、③V Rやロボットを導入した若返りと健康増進プログラムが体験できるスポーツクラブ等を設置。新技術の活用等により、全世界全世代の人が関心を持てるエンターテインメントとして発信する。

●閉幕後は、先端医療を牽引するほか、A Iの実験導入などを行う医療システムとして運営すれば、大阪・関西の強みであるライフサイエンス・ウエルネス分野の産学の集積も活用でき、レガシーとして、地域経済の活性化につながる。



世界各国の高齢化率の推移 (内閣府)

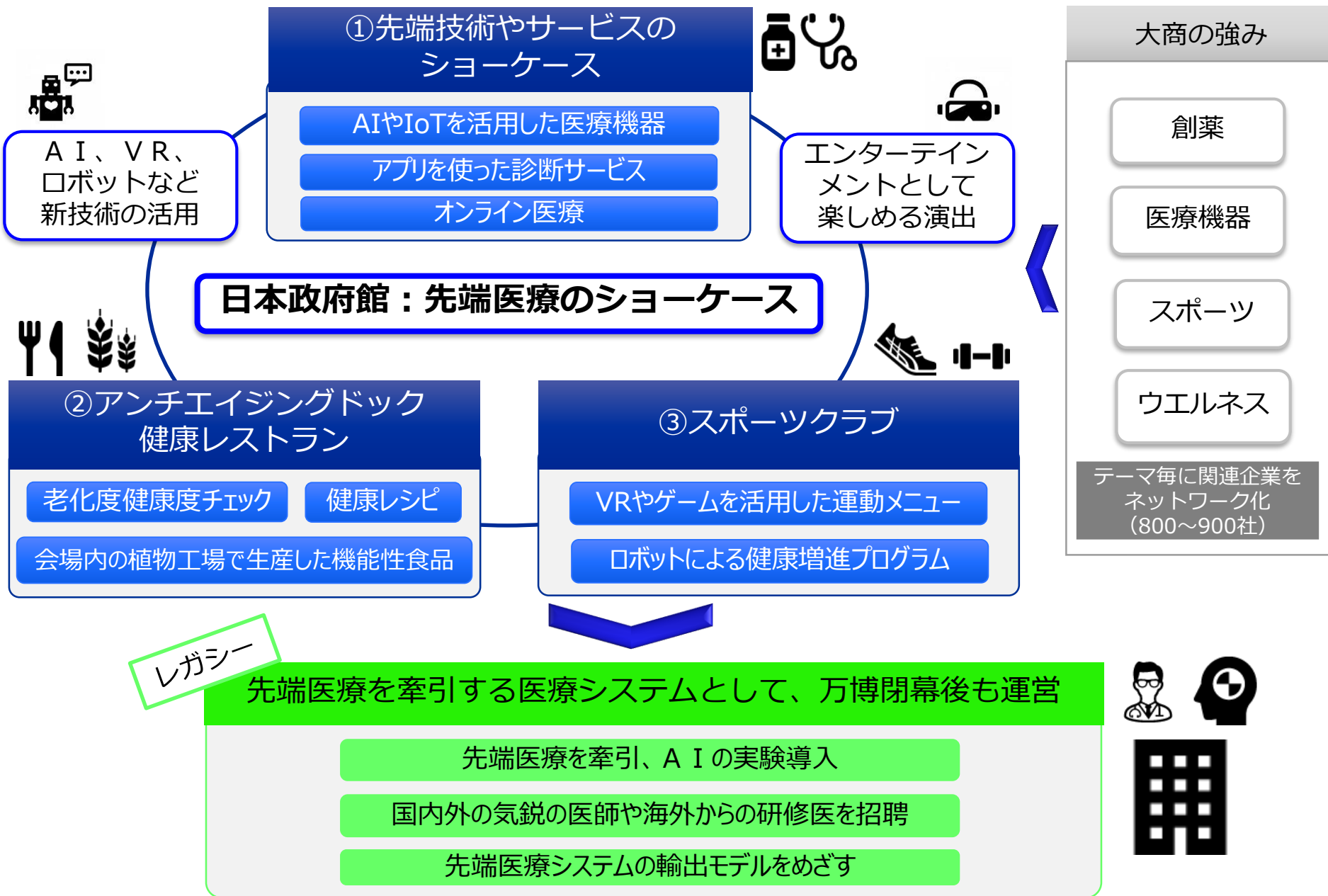
- ① 大阪大学
- ② 大阪府立大学
- ③ 大阪市立大学
- ④ 医薬基盤・健康・栄養研究所
- ⑤ 理化学研究所
生命機能科学研究センター
- ⑥ 国立循環器病研究センター
- ⑦ 脳情報通信融合研究センター
- ⑧ 大阪府立産業技術総合研究所
- ⑨ 産業技術総合研究所
関西センター
- ⑩ 日本医療研究開発機構
創薬戦略部西日本総括部
- ⑪ 医薬品医療機器総合機構
関西支部



道修町には、
300社を
超える製薬
企業が集積

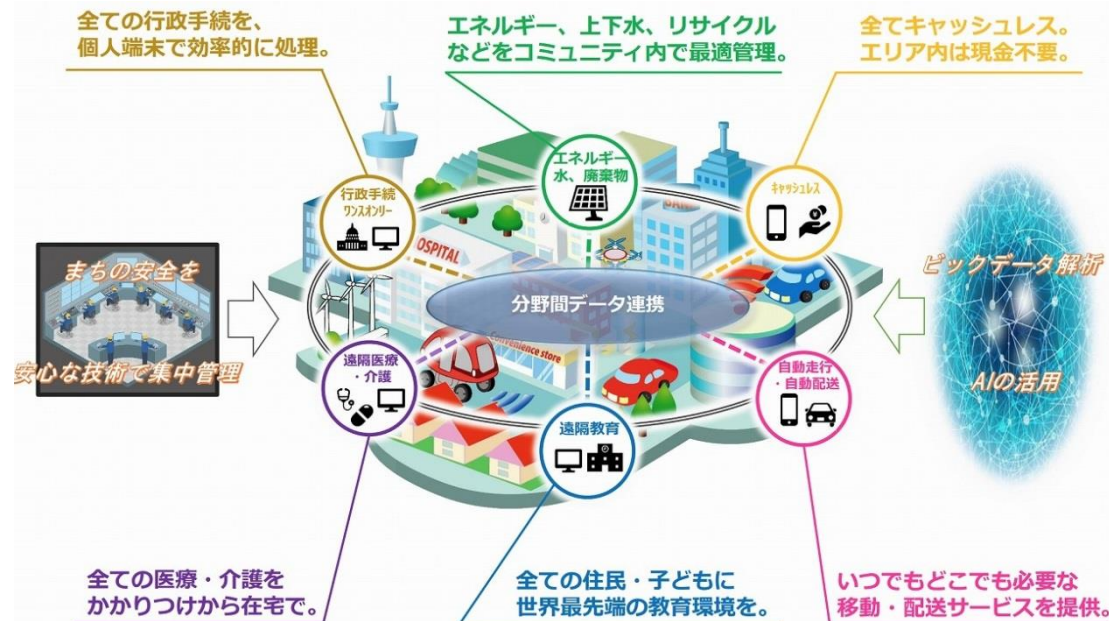
大阪における
ライフサイエンス分野の集積
(大阪府)

先端医療と若さ・健康がテーマ、閉幕後は先端医療システムとして運営する



【2】博覧会会場を「未来都市」の核として、未来仕様の都市設計とインフラ整備を行う

- Society5.0の実現をめざす博覧会の会場を、2030年頃の未来社会の生活を先取りする「まるごと未来都市」の核として整備し、誰もが心身ともに健康で活動的な生活ができ、ストレスなく快適に楽しみを享受できるまちをめざす。
- そのため、物理的な都市インフラ（道路、水道、電力網など）とデジタルインフラ（横断的なデータ連携基盤）を組み合わせ、データ連携のために必要な通信基盤、センサー、デバイスなどを物理的インフラに埋め込み、様々な新しいサービスが提供できる、未来仕様の都市設計とインフラ整備を行う。
- 都市のデジタル化実験地区を先行的に設置し、多様な業種の企業連合によるオープンなプラットフォームで、世界に先がけた「まるごと未来都市」「世界最先端のスーパーシティ」にふさわしいモデルを、万博会場で実験的に構築、必要な改善を加え、パッケージでの海外展開をめざす。



「まるごと未来都市」の実現をめざす （スーパーシティ構想：内閣府）

企業連合プラットフォームで、世界最先端都市スーパーシティを実現する

2025年日本国際博覧会会場

未来都市・スーパーシティを整備

デジタル系と都市インフラ系を統合的に最適設計

都市のデジタル化実験地区を先行的に設置

- * 誰もが心身ともに健康
- * 活動的な生活ができる
- * ストレスなく快適
- * 楽しみを享受できる

デジタルインフラ
横断的なデータ
連携基盤

都市インフラ

建築物・交通網
地上インフラ埋
設インフラ

大商の強み

大阪府・大阪市
・大商による、
実証事業検討
チーム

企業連合によるオープンなプラットフォーム

自動車

建設

医療

不動産

I ねがー

物流

保険

銀行

外食

I T

- 大阪府市の所有地・施設、民間企業施設等での実証実験支援
- 大阪城公園や中之島公園等、シンボリックな場所での実験支援

自動走行・自動配送

キャッシュレス

次世代位置情報
システム構築

オンライン医療

オンライン教育

I ねがー等最適管理

レガシー

次世代型都市プラットフォーム

世界最先端のスーパーシティのモデル

パッケージとして海外展開



【3】データ経済圏形成に向け、博覧会開催前から期間中に、様々な実証実装に取り組む

●未来仕様の都市インフラや共通データ基盤を整備した博覧会会場での実証実装に向け、博覧会開催前から、ウェアブルデバイスによる生体情報システム、MaaS、万博トークン（地域通貨）、ブロックチェーン等の実証実装に取り組み、データ経済圏の形成、Society5.0の実現をめざす。

●ウェアブルデバイスによる生体認証を行えば、個人の生体情報や位置情報、決済情報と連動した消費行動等の情報が一括管理でき、博覧会会場においては、健康状態のモニタリングや、国籍や言語と連動したAI翻訳による自動応答システムによる案内、ビーコンと連動して位置・滞在情報を利用した混雑緩和対策、迷子対策、等に活用することで、誰もがストレスなく快適に、万博会場を楽しむことができる。

●また、これら実証実装を、会場内だけでなく、大阪・関西圏にも広げ、万博トークンをホテルや鉄道、飲食店等で利用できるようにする。MaaSも、博覧会会場へのアクセス交通や移動だけでなく、ショッピングや飲食、イベント、等の情報も組み合わせ、予約から決済まで行えるプラットフォームの構築をめざし、これらビッグデータの集積解析を通じて、データ経済圏の形成につなげる。



MaaS

ウェアブルデバイスによる
生体情報システム



万博トークン

MaaSや万博トークンなどの実証実装を、博覧会会場と大阪・関西圏で実施する



＜博覧会会場での実証実装イメージ＞

ウェアラブルデバイスによる生体情報システム

×

MaaS

×

万博トークン

×

ブロックチェーン

- * 健康状態モニタリング
リスク予見対策機能
- * 10歳若返りを実現する
個別健康プログラム
- * 国籍・言語と連動した
AIによる自動案内
- * 位置・滞在情報を利用した
混雑緩和
- * キャッシュレス決済
- * 迷子対策・見守り機能

博覧会会場 + 大阪・関西圏での実証実装

自動走行・自動配送

キャッシュレス

次世代位置情報システム構築

オンライン医療

オンライン教育

I礼券等最適管理

レガシー

データ経済圏形成

ビッグデータの集積と解析

パッケージとして海外展開

大商の強み

MaaS

ブロックチェーン

キャッシュレス

ウェルネスビジネス

デジタル医療機器

実証事業

テーマ毎に関連企業を
ネットワーク化

【4】博覧会への参画を促す、「いのち輝く未来社会コンテスト」を開催する

- 国内外のスタートアップや中小企業が博覧会に参画する機会として、博覧会で実現したいプロジェクト等を提案するコンテストを開催する。
- 博覧会開催前から、「いのち輝く未来社会のデザイン」に関する技術、ビジネス、エンターテインメント、事業、ハードやソフトのインフラなどを公募するコンテストを毎年実施し、優れたものは博覧会会場で実証、実装、展示できる権利を付与する。
- また応募アイデア自体を公開・利用できるオープンなデータベースを構築し、博覧会に関心を持つ新興国や海外企業、高い技術を持つ大阪の中小企業、国内外の投資家などによる共創機会を創出、成果を発表できる拠点「オープンイノベーションラボ」を、博覧会会場に設置する。
- 様々な階層やチャネルの主体が関わり、エンターテインメント性と技術実装を両立させるプロジェクトとして、例えば、世界の美術館の展示物が一堂に楽しめるデジタル美術館や、複数のジャンルを融合させた学会、週替わりでテーマを設定するフェスなどを実施する。
- 閉幕後も、レガシーとして、国内外の企業が共創する「オープンイノベーションラボ」を運営する。



国内外の企業による「共創」成果を発表する拠点を設置、閉幕後も運営する

博覧会前から開催

いのち輝く未来社会
コンテスト



技術

ビジネス

エンターテインメント

ハードインフラ

ソフトインフラ

優秀なプランは、博覧
会会場で発表実証権利

オープンな
データベースとして公開

新興国

海外企業

共創

スタート
アップ

中小企業

投資家

2025年日本国際博覧会

会場で発表実証実装

レガシー

オープンイノベーション
ラボ

博覧会開催後も、国内外の
企業が集い、共創する拠点

大商の強み

AI

IoT

MaaS

創薬

医療機器

スポーツ

町工場

テーマ毎に関連企業をネットワーク化

大商の強み

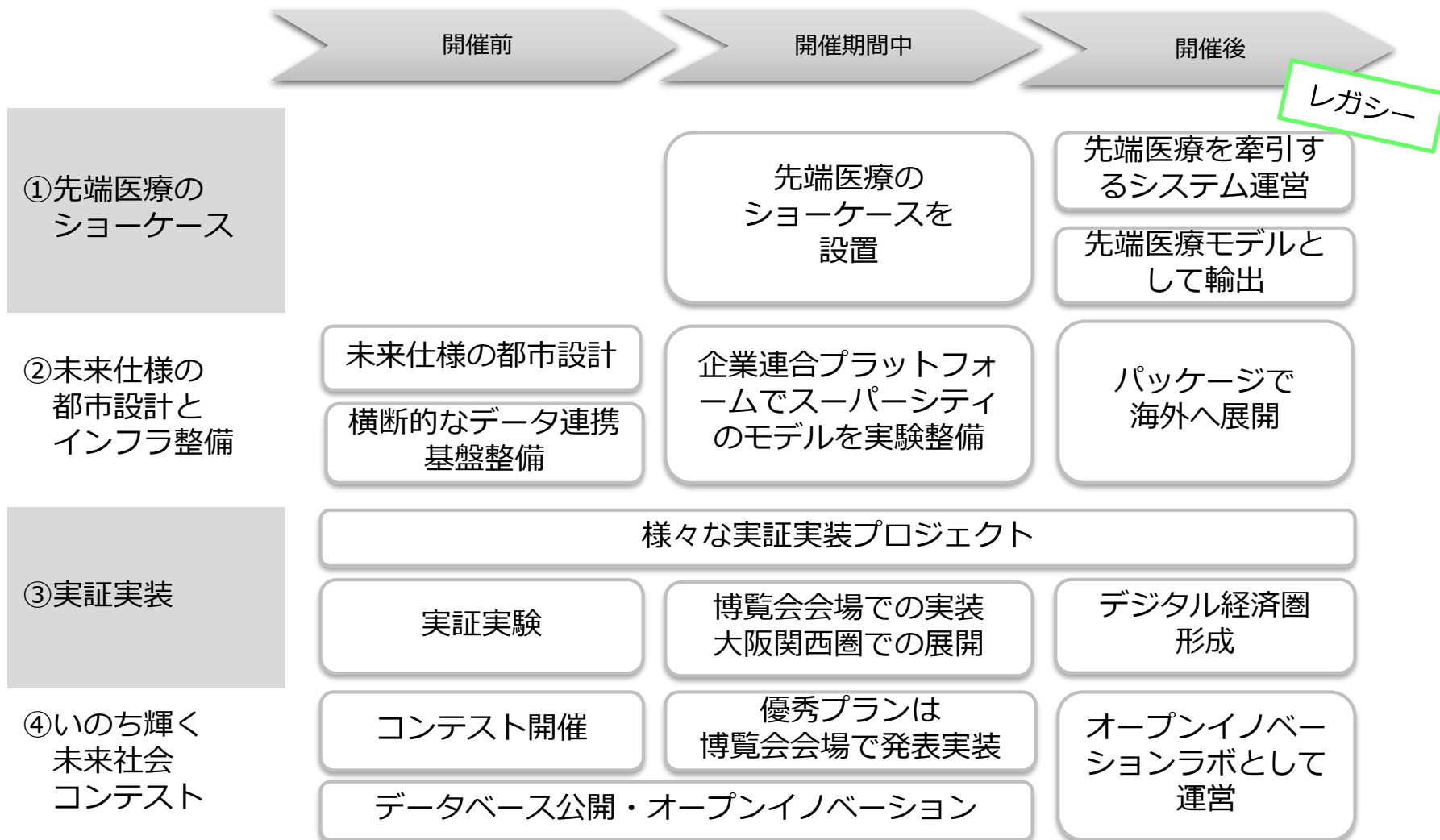
AIビジネス創出アイデアコンテスト

MedTec Connect KANSAI
(ライフサイエンス関連の国際ビジネスコンテスト)

コンテスト入賞者、関心企業をネットワーク化

各プロジェクトの実施イメージ（スケジュール）

● 博覧会開催前から期間中、開催後にかけて、各プロジェクトに取り組み、レガシーとしてその後の大阪・関西の成長につなげていく。



レガシー